

教育

地域志向型共通教育カリキュラムの構築

具体的事業と達成目標

1)現状

山梨大学は、現在、地域を題材とした授業を 34 科目設定し、地域社会の安全と発展に寄与できる人材育成に全学的に取り組んでいます。また、平成 24 年開設の生命環境学部には、地域志向を明確にするため学科名に「地域」の文字を入れた「地域食物科学科」及び「地域社会システム学科」を設置し、専門教育カリキュラムの中で「食」や「経営」に関し、地域社会の中核で活躍できる人材を育成しつつあります。

上記の地域を題材とした授業科目のうち、平成 26 年度開講の共通教育科目は 14 科目あります。これらは、「地域志向導入科目」、「初年次教育科目」、「社会人基礎力養成科目」、「地域志向発展科目」に分類され、以下はその例です。

- 1) 山梨学(地域志向導入科目):山梨県が推進する「やまなし観光カレッジ事業」に基づいて、山梨大学とやまなし観光推進機構が協力して行っています。山梨県の魅力となっている風土、施設、産業などについて、野外見学を交えて広く習得します。本講義を受講し、県の求める書式のレポート等を提出した学生に「やまなし観光カレッジ修了証」の交付が行われます。
- 2) 山梨大学から見る大学の歴史と現在(地域志向導入科目):地域の大学である本学について学びます。こうした学びが、学生の一人ひとりが山梨大学で学んでいくことの意味を見出すきっかけになります。
- 3) 水圏植物の生物学(地域志向導入科目):自然豊かな山梨県の生物を題材として、地域の自然を構成する水圏植物の本質、重要性、我々人間との関わりについて学びます。
- 4) 自然災害と都市防災:地域の自然環境と自然災害の発生メカニズム、身近な都市防災の技術など、地域防災に役立つことを学びます。
- 5) 社会における看護と介護(地域志向導入科目):地域社会で生活するあらゆる年齢層の人々とその家族のもつ健康問題およびその人々と家族に対する看護

と介護について学びます。

6) ワインと宝石(地域志向発展科目):山梨県の重要産業であるワインと宝石について、ワインの製法、微生物およびブドウとワインの科学、ワインと健康、宝石の結晶材料への変貌、日常生活に関わりの深い無機材料などについて学びます。

7) ワイン製造及び体験実習(地域志向発展科目):ワイン科学研究センターの醸造設備を用いて、ワイン製造および体験学習を行い、ワインに関する高度な知識を学びます。

2)具体的事業と達成目標

地域の課題を解決するためには、地域に関する広く深い教養が必要です。そこで、本事業では、「地域志向型共通教育カリキュラム」を構築します。それにより、教育の深化・充実へとつながる新たな地域志向型教育スキームを構築できると考えます。また、当該カリキュラムを実施することにより、論理的思考力を持って地域の課題を見出し、それを解決できる人材を育成することが可能となります。そのために、本事業では、共通教育カリキュラムにおいて現行の科目の中で地域を扱う部分を増やし、新たな地域関連科目を開講していきます。

達成目標は、地域志向型共通教育カリキュラムの科目数を平成 26 年度の 14 科目から平成 30 年度には 40 科目に、順次増やすことです。手始めとして、平成 27 年度からは、「山梨学」を強化するとともに、新たに下記の科目を開講します。

- 1) 住まいの地方性:地域の気候・風土、歴史、文化、生活様式などと深く関わっている日本各地の住まいを取り上げ、「地方性・地域性」の実態とその形成要因について学びます。
- 2) 死生学入門:人が生きていく上で必要な、家族・地域社会における「人との関わり」と「自立」の大切さを、「生」と「死」に関するリテラシーの学び、「ロールプレイ」を含む演習などで意識し、「心豊かに生きること」「健やかに生きること」の大切さを実感として学びます。

地域課題実践型カリキュラム

ワイン科学特別コース

このコースでは、果樹の栽培及び食品製造に関する幅広い知識、さらにブドウやワインに関する最先端の知識と技術を学びます。ブドウ栽培学実習、ワイン製造科学実習、ワイナリーでブドウ栽培やワイン醸造の現場を体験するインターンシップなどの実習を交えて、ブドウやワインに関する高度な専門知識と実践的な技術力を備え、ワイン製造に熱意を持った技術者・研究者の育成を目指すものです。

食のブランド化と美しい里づくり人材育成コース

このコースでは、生物資源実習、資源循環型ものづくり実習、食品製造の現場インターンシップなど環境保全型農業及び食品製造技術を学び、農産物や食品の地域ブランド化を支える技術者・研究者の育成を目指します。さらに環境科学、環境アセスメント技術、経済学、経営学及び地域共生デザイン等を学び、ツーリズムと果樹農業・宝飾産業等のベストミックス、森林の継承、環境保全、防災、景観等を分析し環境地域計画を立案できる、持続的に繁栄する美しい里づくりに貢献できる人材を育成します。そのために全

学出動態勢で教員が講義を担当します。

両コースの特徴

2つのコースは、専門課程に加え、地域志向型共通教育カリキュラムの入門として地域志向導入科目、初年次教育科目、社会人基礎力養成科目、地域志向発展科目を学び、学習の集大成としてアクティブラーニングによる地域課題解決科目としての実習を履修します。必要な単位と科目を履修しますとコースの修了証書が授与されます(図1)。

現在、試行へむけて両コースのプログラムの詳細及び学内での教育体制を、地域志向型教育活性化委員会を設立し、検討しているところです。

アクティブラーニング

地域課題解決科目の実習では、教員の指導體制と地域の受け入れ体制を学習基盤として、学生が地域の行政や企業の現場へ行き、地域を知り、課題を発見し、課題の解決策を、地域社会の計画として提案するものと、技術開発を行う場合の2つを計画しています。また、他の専門科目でもアクティブラーニングを導入します。

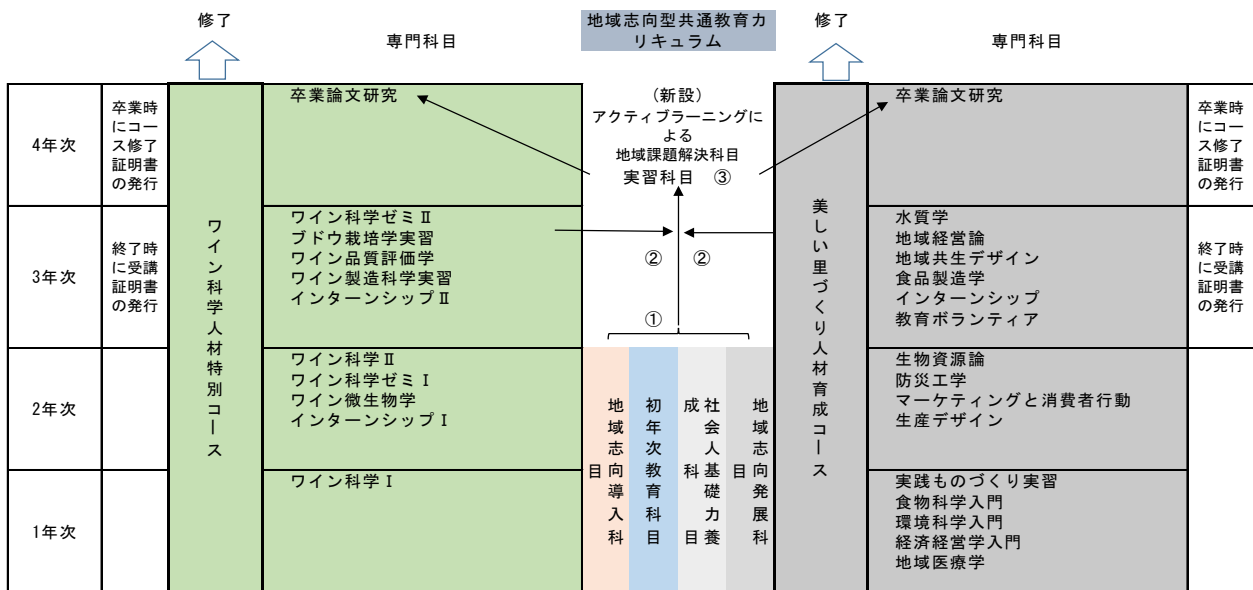


図1 地域課題実践コース教育体系(案)